桜華大学男子応援部！伝統の全裸深夜練習に女子チア部が参加！全裸の男子とチア衣装の女子の合同練習！

ここは桜華大学の応援部。とても厳しいことで有名で、中でも独特な伝統となっているのが夏合宿の深夜練。

この深夜練は夜通し体育館のステージに全裸で立ち、ひたすら応援練習を行うというものだ。

昨日の深夜練では女性ノンフィクションライターが取材に訪れ、その目の前

て全裸に、おちんちんを丸出しにして練習を行った。

合宿3日目の練習が終わった直後、体育館の空気はまだ熱く、重く淀んでいた。

40名の部員が集まり、顧問の佐藤教諭が静かに、しかし厳しい声で告げた。

「今夜はここで一旦終わりにする。深夜練は今日は無しだ。

その代わり、明日の朝練は少し特別だ。

女子チアリーディング部と合同練習を行うことになった。

お前たちも知っている通り、今年から応援部とチアの合同強化が大学側から決まった。

明日の朝6時、この体育館で集合。深夜練と同じく、全裸のまま声出し練習を行う。 チアの女子たちも通常のチア衣装のまま参加する。」

部員たちの間に、かすかなざわめきと緊張の息遣いが広がった。

4年生のキャプテン・鈴木は唇を固く結び、真正面を向いたまま微かに眉を寄せた。隣の3年生・山田は目を伏せ、息をゆっくり吐きながら拳を握りしめた。1年生の小林は顔を真っ赤にし、両手を後ろで組んだまま肩を小さく震わせた。

夜が明け、翌朝——午前6時ちょうど。

山中のキャンプ場にある体育館に、再び40名の応援部員が集まった。

全員が昨夜と同じく完全に全裸の状態で、赤い鉢巻きだけを額に締め、両手を後ろに組んでステージ上に整列している。

夜の冷え込みがまだ残る体育館の空気は肌を刺すように冷たく、部員たちの肌はすでに薄く汗で濡れ始めていた。40本のちんちんが、朝の薄明かりの中で無防備に晒され、冷気と緊張で少し縮こまっている者もいた。

そして、体育館の反対側の大きな扉がゆっくりと開いた。

入ってきたのは、桜華大学女子チアリーディング部の部員たち——総勢18名。

全員が鮮やかな桜色と白を基調としたチアユニフォームを着用している。

胸元が大きく開いたトップス、短く翻るスカート、肩やおへそ、脚の大部分が大胆に露出した動きやすい衣装だ。髪を高くポニーテールにまとめ、軽くチークとグロスを施した女子大生たちが、元気よく、しかし少し緊張した足取りで体育館に入ってくる。

彼女たちはステージの真向かいに、約10メートルの距離を置いて整列した。

その位置から、男子応援部員たちの全裸の姿が真正面からはっきりと、しかも細部まで見える。

チアリーディング部のキャプテンである4年生・白石遥は視線を真正面に向けた瞬間、瞳が大きく見開かれた。